建築作品部門

建築物の保存問題全般

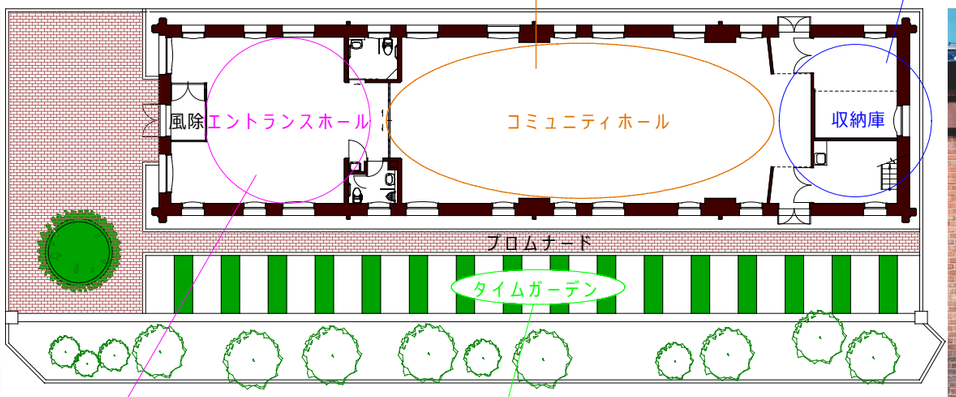
山梨大学
赤レンガ館

◆施設の老朽化
構造的体力の劣化
屋根材(瓦葺き)の落下
内部空間の非効率性
◆歴史的姿を残す

◆教育実習と世代を超えた
地域コミュニティの拠点
生涯楽手への対応
学校・家庭・地域社会の連携

■実習、ふれあい空間
①学芸員「博物館実習」の実施施設
②博物館教育の実践の場
③卒業演奏会、展覧会、書道展、演劇上映
④付属学校の児童・生徒との相互交流、
高齢者との地域交流の場
⑤講演会、コンサートなど地域住民に開放
する生涯学習施設

■管理収納・スペース
管理・運営の為の事務室
貴重が学術資料の保管
展示、イベント用備品の収納



■出会いと展示の空間
歴史的建物の由来
学術的資料(水晶、人工宝石、ワイン)
地域の特産、民芸品等の展示

■時を感じる散歩道
現在・過去・未来　建物の経た歴史と未来、
時の流れを感じながら歩く空間
屋外展示や野外研修の場としても活用

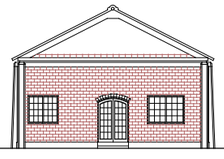
昭和20年7月6日の甲府大空襲により市街の建物の大半が焼失した中で、甲府法人会館や山梨県庁舎旧館などと共に甲府市内に残った数少ない歴史的建造物のひとつです。

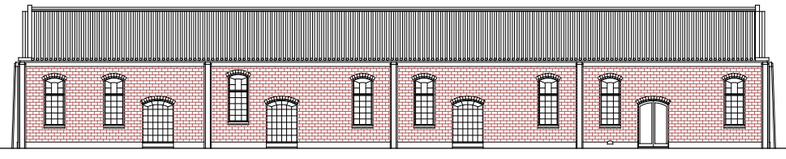
赤レンガ棟は第49歩兵連隊の糧秣庫（食糧備蓄倉庫）として明治41年（1908年）頃建設されました。この建物は尺割により造られた煉瓦造で、間口5間・奥行20間・面積100坪、平屋の建築です。明治期洋風建築として山梨県に残る数棟の煉瓦造建築の中の最大規模の建築です。

特徴はアーチ式の入口・窓、キングポストトラス構造の日本瓦葺き切妻屋根、外壁は当時としては珍しい「オランダ積」の組積構造で、甲州煉瓦製造の赤レンガです。

山梨大学附属中学校の施設として利用されていたが老朽化が進み、平成10年大雪のため建物の一部が破損されたのを契機に保存の機運が高まり、耐震工事と復元改修を行いました。

文化庁指定の「登録有形文化財」です。


西側立面図


南側立面図

応募代表者：長田 孝三
株式会社　イズ

1975年　千葉大学工学部建築学科卒業
(株)高野重文建築事務所へ入所
1980年　山梨県甲府市へ帰郷、
長田孝三一級建築士事務所開設
1990年　株式会社イズへ改組

甲府に帰って事務所を開設したのは、これまで学んだ事柄を、ふるさと山梨のために生かしたい、人々の身近にいて、市民と共にある建築家として、まちづくりや、皆が望んでいる使いやすく、美しい建築をつくりたいとの想いからでした。

事務所開設後、35年、その想いは今も変わらず、イズの大切な基本姿勢になっています。